ThuVAPの特徴と当院での初期成績

佐野　太 先生

横浜南共済病院　泌尿器科　手術担当部長

〈略　歴〉

2000年　横浜市立大学医学部卒業
　　横浜市立大学附属病院などの勤務を経て
2015年　横須賀共済病院で光選択的前立腺蒸散術（PVP)を開始
2020年　横浜南共済病院泌尿器科手術担当部長
　　ツリウムレーザ前立腺蒸散術(Thulium laser vaporization of the prostate： ThuVAP)を開始

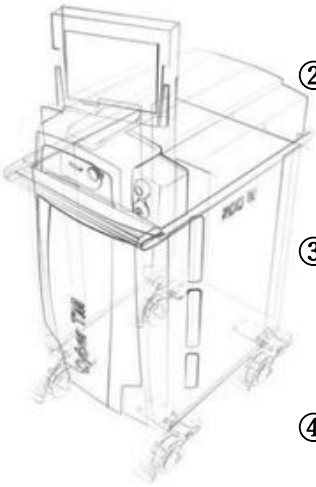
〈資　格〉

日本泌尿器科学会　専門医･指導医
日本泌尿器内視鏡学会、日本内視鏡外科学会　泌尿器腹腔鏡手術技術認定医
泌尿器ロボット支援手術プロクター
医学博士
Quanta Cyber TM　MAESTRO

〈所属学会〉

日本泌尿器科学会
日本泌尿器内視鏡学会
日本癌治療学会
日本内視鏡外科学会

ThuVAPの特徴



① 蒸散効率が良く、症状改善に優れる
最高200Wの高出力レーザで、100cc超の大きい前立腺の治療も可能。

② 高い安全性
出血が少なく、抗血小板薬・抗凝固薬継続での手術が可能。また、凝固深度が浅いため、術後の浮腫が軽度で、一過性尿閉のリスクが低い。

③ 手技の習得が容易
直射式のレーザ、TURに類似したスコープ操作など、手技的には泌尿器科医にとって受け入れやすい。また、出血が少なく、組織片が発生しないため、良い視野で手術を進めることができる。

④ 経済性に優れる
ファイバーは複数回使用可能のため、コストを抑制できる。合併症を起こし にくく、早期の退院が可能。

当院での初期成績

横浜南共済病院でのThuVAP初期成績（2020年7月導入時からの半年間、38例）を示す。

術前および周術期

	中央値
年齢	75歳（57-95）
前立腺体積	70cc (28-220)
術前尿道カテーテル留置	18例　（47%）
手術時間	90.5分 (25-138)
使用エネルギー	350.7kJ (15.2-763.8)

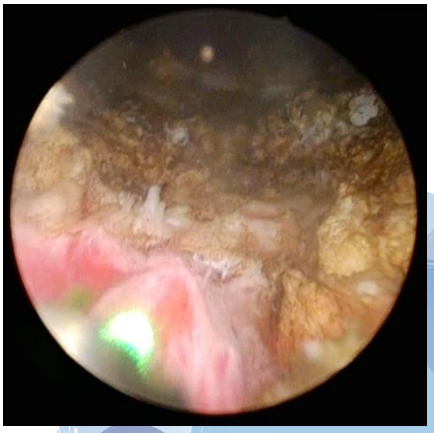
合併症

一過性尿閉	3（7.8%）
尿路感染	4 (10.5%)
後出血	0（0%）

自覚症状スコアの推移

	術前	1か月	3か月	6か月
IPSS	17	8	9	5
QOL score	5	3	3	1
OABSS	6.5	5	4.5	1

当院は日本泌尿器科学会の拠点教育施設であり、多くの若手医師が在籍している。有効かつ安全で、取り組みやすいThuVAPの特徴をふまえ、若手医師も指導医の下で本手術を多数執刀している。



(参考)泌尿器科1年目の医師による執刀症例。手術終了時、精阜付近より膀胱方向をのぞむ。前立腺部は十分に開大している。出血はほとんど認められない。手術前の前立腺体積70cc、手術時間65分

老年人口の増加、抗血小板薬・抗凝固薬服用患者の増加、排尿ケアの意識の高まりなどから、安全性が高く、効率の良い前立腺肥大症の手術が求められている。先に述べた利点をもつThuVAPはその選択肢のひとつであると考えられる。